

(競輪事業部入室)

午後 2 時00分

○委員長 (齊藤 明男)

- ・ 開会前だが、小野沢委員が所用のため欠席するのでお知らせする。

午後 2 時00分開議

○委員長 (齊藤 明男)

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

(1) 競輪事業の活性化について

○委員長 (齊藤 明男)

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、前回の委員会において今後の調査の進め方を資料 1 のとおり確認した。
- ・ 本日は、目的欄に記載のとおり、次期事業者選定の参考となる提言を検討するため、中段の調査内容欄に記載の 2 点、提案のとおり事業が行われているか、また、現事業者に対する小倉競輪での評価がある中で、函館競輪において適切に業務が行われているかについて、理事者から状況を確認させていただき、その後、提言への反映について協議することとなるが、提言に当たっては、何のために提言するのか、その目的や効果、さらには提言した事項を進めていく上での課題など、具体的な協議をしていきたいと考えているので、これを念頭に置いて発言いただくよう、よろしく願います。
- ・ それでは、先に配付された資料「函館競輪開催業務等包括委託提案内容の評価について」、競輪事業部より説明をお願いします。

○競輪事業部長 (三上 武一)・競輪事業部事業課長 (中村 謙三)

- ・ 資料説明：函館競輪開催業務等包括委託提案内容の評価について
(平成26年10月 6 日付 競輪事業部調製)

○委員長 (齊藤 明男)

- ・ ただいまの説明にかかわり、各委員から発言はあるか。

○金澤 浩幸委員

- ・ トータルで考えると、市直営でやっていたときよりも売り上げ、あるいはお客様に対するサービスも向上しているのかなど。さらには、従業員の雇用についても雇用条件がよくなっているということだろうから、我々が危惧していた小倉では評価されないで落ちたところが、函館では日本トーターが受注したというところを少し懸念して、委員会としても発言があったと思うが、そういうのがないということで確認できたので、これはこれでいいのかなど思っている。
- ・ それで、逆に考えると、この日本トーターのやっていることがそんなに問題がないのに、小倉ではなぜか違うところを選んでしまって、あえて言うならば、そっちが失敗だったのではないのかなとい

う、そこまで考えられないこともないのかなと思って、今、包括委託実施場の表を見させていただいたが、その辺何かあるか。3年間やってきて、日本トーターに3年、包括で受けていただいて、次が、これでいくと、あと2年後になるだろうが、そのときまでの見通しとか、JKA・コアズよりはよかったのではないかとか、その辺の評価というのはあるか。

○競輪事業部長（三上 武一）

- ・ 先ほど言ったとおり、日本トーターは来年度で終わりということで、来年にはその次期包括の部分でのプロポーザルが始まるわけだが、先ほども申し上げたとおり、実際に売り上げも向上している。いろんな面でも、地場産業というか、そういう部分とも、eスマート、協賛店等々も、当初より、31件のものがその倍、60何件に増えていると。で、いろんな競輪のイベントに関しても、地場産業、そういう協賛店を中心として、地場産業と連携をした中で地域の活性化等も図っている部分では、私のまだ私も1年半くらいだが、評価は高いわけだが、次期包括に向けては複数社が手を挙げていただければ、累積赤字もあるので、内容を加味した中で、やはり契約金額の部分が安いというか、定額のほうがいいのかなというふうに思っている。

○金澤 浩幸委員

- ・ いや、私は安ければいいという話ではないと思っているので、余り安くすると、さっきお話しした従業員の雇用だとか、そこら辺でいろんな問題が出てくる可能性もあるだろうから、そこは余り、今で、現状で売り上げ伸びているので、そこで包括委託の金額を下げて、多分年間数千万円の、下がったとしても1,000万円だとか1,500万円だとか、せいぜいそんなレベルだろうから、そこは余り考えないで、いいものを出してくれた業者に再委託していただければなという話をさせていただき、終わる。

○阿部 善一委員

- ・ 総体的に市の評価は高いなという印象を受けたが、先ほど部長から冒頭説明あったように、売り上げも大幅に増えたみたいで、大変喜ばしいことだと。何よりも赤字にならなければいい話なので、そして早く借金を予定どおり返すことが当面の大きな課題でもあるわけだが、いろいろ車券を売っていく中で、例えば今までに車券売り上げ増という期待をしていたサテライト松風だとか、あるいはまた石狩のほうにもあったと思うが、あと札幌はやめたんだっか、そういうところは今、何か所あるか。

○競輪事業部事業課長（中村 謙三）

- ・ 今、函館市が管理しているサテライトは全国で、松風も含めて4カ所になる。札幌市にサテライト札幌、石狩市にサテライト石狩、それと秋田県男鹿市にサテライト男鹿ということで、松風も含めて全部で4カ所になる。

○阿部 善一委員

- ・ その中で、ずっと委員会で問題になったのは松風町の賃貸の問題であったが、あれは相当長い契約をしてたと思うが、建て直しするときに。あれは、契約年数はいつまでだったか。

○競輪事業部事業課長（中村 謙三）

- ・ 契約上は毎年度、1年契約になっている。

○阿部 善一委員

- ・ 前に委員会でもやったが、そうすると、あそこは赤字だと。年間、たしか当時5,000万円の赤字が

出ていたが、では赤字解消をするために契約をやめるかと。そうした場合に、訴えられる可能性がある。損害賠償を訴えられる可能性があるということであったが、今はもうそういうのはなくなったのか。契約の1年というのは、その更新のための1年契約であって、長期にそこを借りるという契約は、また別に存在はしてないか。

○競輪事業部事業課長（中村 謙三）

- ・ 契約を2本で、長期分と単年度ということではなく、契約はあくまでも単年度であるが、立て直すときには、一定程度長期にうちがずっと借りるという形で、あそこを施設所有者の方が建て直して現在に至っている形である。

○阿部 善一委員

- ・ いや、だから、その業務委託するのは1年の業務委託という形になるかもしれないが、建物だとか土地とかというのは長期の契約で、つくって、いわゆるリースバックみたいな形になっていると思う。そのときに、じゃあ年間、当時の議論では、解約したらいいじゃないかと。5,000万円も年間赤字出てる。いや、これは解約したら莫大な損害金が取られるんだと。だから、契約を解約できないんだというふうにずっときていると思う。それは、もう今はなくなったのか。完全になくなったのであれば、簡単に1年契約できると思う。だけど、長期、建物を、委託の部分については1年ごとに契約って、それはちょっと意味が二つあると思うが。

○競輪事業部長（三上 武一）

- ・ 大変申し訳ないが、今その辺の知識というか、もう少しじっくり調べて回答しなければ、松風のその辺のことに關しては、ちょっともう少しじっくり調べて回答しないとかならないのかなというふうに思っているが。

○阿部 善一委員

- ・ いや、これは極めて基本的な問題なので、あとでも、じゃあわかり次第、ちょっと委員会のほうでも何かの形で皆さんにお知らせいただきたい。
- ・ もう一つ、道内の石狩、そこも当初はそれなりに実績が上がったが、何年か経過したごとに、段々売り上げも下がってという話になっていると思うが、今はどんな状況か。

○競輪事業部事業課長（中村 謙三）

- ・ 今はサテライト石狩のほうは黒字である。松風のほうも今、昔と違って経費削減等ができて、今うちが管理施行している4つのサテライトは、額の多い少ないは別として、一応今黒字になっている。

○阿部 善一委員

- ・ 黒字なら問題ないが、その賃貸借契約の、それが将来的に大きな足かせになれば、それは営業に直接影響する話なので、松風町も含めて、それはのちほど調べて、きちんと委員会でも、皆さんにも教えていただきたいなど。
- ・ あとは、先ほど言ったように、トーターが相当高い評価を得ているが、そうすると、あと望んで、細かいものは別として、基本的なもので、もっと売り上げを増やすという観点からすれば、直接かかわっている函館市の要望として、トーターに何か要望しているものがあるのかどうかということについて。

○競輪事業部長（三上 武一）

- ・ 特に大きなものはないが、電話投票等々をやって、お客様からの声というものを随時聞いて、送られてくるが、その中で景品を増やしてほしいとかいう部分が、やはりかなりのお客様の声として、要するに1日当たり例えばお客様に対して10個プレゼントとか、そのものに海産物は5個くらいとかあるが、お客様からそういう声があるので、その部分はトーターのほうには、何か工夫してお客様の声に応えるようにとは話しているが、大きな部分では現在のところない。

○浜野 幸子委員

- ・ 委託する前にカードができた。あのカードをつくるのに、委員会で大変ファンが不安がっている、そういうのはやめるとか、もうすごいいろんな問題があった、当時はあった。そういう中でトーターに決まって、決まったらなおのこと、そういう委員会で大きな声があったが、現状はやはり今もまだ戸惑っているとか、やはりそういう愚痴、先ほど何も現金がないというので、ないだろうが、まだそういう気持ちを持っている人がいるかどうか。
- ・ それと、松風の件だが、あれもやはりやめろという意見がすごく多かったのが、この委託前である。しかし、やはりそれを乗り越えたら、もう毎年、少しだが黒字になっているのは私も書類とかで承知している。そういう意味で、松風、それとカード不安、これは今、対応というか、スムーズにいつているかどうかだけ教えていただきたい。

○競輪事業部事業課長（中村 謙三）

- ・ まずeスマートカードの導入をして、22年からで5年目に入ろうとしているが、先ほどもちょっと資料のほうで説明したが、大体今車券の売り上げの75パーセントがeスマートカードでやられている。実体的にいくと、お客様がカードと、現金機、自動機もあるが、使い分けをしているのが実態だというふうに見ている。実際カードを持っているが、現金機で車券を買っているお客様もいるので、まだやはり中には現金機で、カードという方もいらっしゃるというふうに、実際に声出ているので、そういう声はある。ただ、実体的には今、市内のほぼ、全体では9,500人の会員だが、大体ほぼ市内のお客様はほとんどがカードをつくっていただいている状況からいうと、一定程度はお客様にもうなじんでいただいているのかなど。そういう状況だというふうに考えている。
- ・ それと、松風のほうについては、どうしても松風の売り上げ、市営函館競輪が金堀町で開催しているときは、松風のお客様が金堀町のほうに、実際のレースを見ながら買うということで、お客様は若干減るが、それでも1日場外、きょうは熊本記念の場外を発売しているが、300人とか400人、多いときは来て、1日の売り上げも500万円とか300万円というのがあるので、一定程度のお客様、大門近辺の方、西部地区の方がいらしているということで、なおかつ、今松風のほうもかなり人員、前は市の職員も配置していたが、嘱託職員も配置していたが、そういうのを見直したりして、結構経費を削減した関係で、今松風のほうも黒字に転じているので、その辺であれば一定程度松風のほうも、地元の人のファンサービスにはなっているのかなどというふうに考えている。

○浜野 幸子委員

- ・ ちょっと振り返って、5年前の競輪の質問をした経過を随分今思い出してみまして、そういうのが徐々に、本当になくなったということがわかればそれで結構である。

○能登谷 公委員

- ・ ちょっと2点ほど聞きたいが、ロイヤルボックスだとかVIP、いわゆるサテライトのところのVIPというか特別ルームの使用率はどうなのか。それともう一つはファンの声、私よく聞くが、あまりにも開催日数が多い、きょう終わったと思ったら、またすぐあれだと。同じ日にまたあるとか。開催日数も疲れるという話もあるが、ファンにとってはいっぱいあればいいんだろうけど、懐が大変だという人たちもいて、私はサテライトをよく見に行けば、100円玉を積んでやっている人たちが多く、そういう形の中で、年金、年金者ったらおかしいが、そういう方たちのファンが今相当多くなってきているのではないかと思うが、そういう部分の中で、さっき言ったようなロイヤルボックスの利用率だとか、私が前に行ったときには、男鹿だとかでは弁当を出してみたり、いろんなことをファンサービスしてやっているが、今実際そのファンの声、それからロイヤルボックスだとか、その稼働率というのはどうなんでしょうか。

○競輪事業部事業課長（中村 謙三）

- ・ サテライト松風の特席の稼働率、実際的に数字的にはちょっと持ち合わせてはないんですが、施設所有者のほうに確認したり、受託してるトーターのほうの職員に聞いている話だと、あそこは60席、人が入れる形だが、1日10人、多くても15、16人がせいぜい利用されているお客様で、ほぼ固定化されたお客様が利用されているというふうに向っている。ただ、ちょっと俗な言い方になるかもしれないが、一人当たりの購入単価は、特席に入られる方は、やはり一般入場席に入れるところよりは高くなる傾向があるということで、それは本場にも言えるが、やはり特席のほうが多い形である。やはり最初の頃は多かったと思うが、今、景気の関係なのか、あまりにも高齢化されて、年金者の方が多くなったのか、特席の入場料、今松風で500円かかる。本場だと400円だが、その500円があるのであれば、逆に車券を買うというお客様が増えている。実際新聞とかを、予想新聞が500円するが、新聞を買わずに車券購入していただいているお客様がかなり増えているので、そういうのがあって、そういう特席が余り利用させてないのかなというふうに思っている。また、一般席のほうも、昔と違って余りお客様が混まなくなったので、そういう面で総体的にお客様が減った関係で減っているのかなというふうに思っている。

○競輪事業部長（三上 武一）

- ・ 開催日程については、今競輪界としては365日開催を目指していて、1日の時間帯でいくと、モーニング、9時からミッドナイトの23時まで、びっしり休むことなくお客様に、要するに、前であれば、開催日程とか確認しないと、やっている、やらないはわからなかった。そういうことなく、要するにお客様の都合にあわせて行っていただければ、やっている。それが365日、最近の競輪業界の表現でいくと、競輪のコンビニ化を目指すということであり、御理解いただきたいと思う。

○能登谷 公委員

- ・ ファンの声というのはやはり大きくて、特に函館のファンというのは、こんなことを言ったら失礼だが、大変に100円、200円をかけていくというお客さんが多いから、ファンが多いので、それで、いや、能登谷さん、あんまり多すぎてねというふうな感じで言われるが、365日、これから開催を目指す、今も目指していると。ミッドナイトもこれから函館でやるのかやらないのかわからないが、そ

ういうことも目指すとなると、まだまだ開催日数が多くなるのではないかなという部分があると思うので、その辺はお客様に、やはりいわゆる広報公聴たらおかしいが、広報をしなきゃだめだろうし、それとさっき言ったロイヤルボックスの部分というのは、やはり常連化しているが、やはり本当の意味のファンというか、そういうところで、結局高額に車券を買ってくれるという人がやはり楽しんでいるという部分が多いし、それから電話投票で、女性が物すごい多い、電話投票。なので、そういう部分の中でも、まだまだこれから、例えば電話投票の人たちにも、さっき言った、何かこう、何回かに分けて景品を差し上げるとか、そういう部分の何か利便性もあっていいのではないかなと思うので、一つよろしく願います。終わる。

○委員長（齊藤 明男）

- ・ ほかに発言あるか。（発言なし）
- ・ 発言を終結する。
- ・ ここで理事者は退室願う。

（競輪事業部退室）

○委員長（齊藤 明男）

- ・ これより本日の調査に係る提言への反映について協議を行う。
- ・ お手元に配付している資料2は、これまでの調査で確認している提言項目2点にかかわって、現時点での骨子案として取りまとめたものであるので、確認願う。
- ・ 先ほどの状況確認等も踏まえ、各委員から提言項目追加等の提案があれば、その目的や期待される効果、進めていく上での課題もあわせ、発言をお願いします。

○阿部 善一委員

- ・ こういう制度、外部委託、全面的な外部委託をやって、今日本トーターがやっているが、実際のところ、ほかのところと別に比較しようがない。できない。なので、本当に一生懸命やっているとは思いますが、ほかのところに頼んだら、もっと実は売り上げが上がるのか下がるのか、それはわからない。やってまだ年数が短いから、比較対象にするものが実は身近にない。なので、非常にそういう意味では提言というのは難しいが、で、普段しょっちゅうやっているわけでもないし。そうすると、やっぱり提言というか、ここにも書いているように、やはり赤字解消に向けて最大限努力をしてほしいということと、ファンを大事にしてほしいというようなことしかないような気がする。いろいろ改善点、改良点たって、なかなかそれは難しい話で、技術的なものも含めて難しい話なので、そういう大きなものにしかならないような気がする。私の考えである。

○委員長（齊藤 明男）

- ・ そうすると、ここに示されている活性化、あとは具体的な施策も書いているが、大体この辺でファンサービスだとかそういうのも書かれているが、これでもよろしいということで構わないか。提言ではなく、参考意見として、委員会として報告したいと思うが、皆さんどうか。（異議なし）
- ・ ほかにあるか。（発言なし）
- ・ 特に発言がないようなので、骨子案については資料2のとおり確認させていただき、次回、正副から提言書案をお示しした中で、取りまとめに向けた協議を進めていきたいと思うので、よろしく願

いする。

- ・ 先ほど阿部委員のほうからサテライト松風の長期賃貸等についての資料の要求が……。

○能登谷 公委員

- ・ 松風もそうだけど、ほかのところももらえるか。

○委員長（齊藤 明男）

- ・ 契約状況か。賃貸契約の状況。

○能登谷 公委員

- ・ 4つあるということでしょ。

○委員長（齊藤 明男）

- ・ ちょっと理事者に確認して。あると思う。確認して、出せるようであれば、きょうの補足の資料として皆さんに配付するというのでよいか。（異議なし）
- ・ では、そのようにしたいと思う。
- ・ その他、本件にかかわって各委員から何か発言あるか。（発言なし）
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（齊藤 明男）

- ・ その他、各委員から何か発言あるか。（発言なし）
- ・ 散会宣告

午後 2 時48分散会